■コマンドN　活動歴　　2009.6.17現在

企画名称	期間	内容
渡辺肇展 photo exhibit	1998/6/19〜7/5	渡辺肇 写真展　"august 1996"
commandN shop01 キム・ナヨン展「Go on a picnic!」	1998/7/29〜8/15	パリ製ピクニック鞄を発表/限定発売。視覚情報とその情報が抱く機能・身体性を工業製品と同じ位置から創造し社会を見つめなおしていく。一般参加できるピクニックワークショップも実施。
モイカフェ・イン・キューブ"You are what you eat"	1998/9/4〜9/20	料理と写真、映像によるインスタレーションカフェ。ベトナムのイージーで美味しいカフェのあり方に触発された海田と坂口が移動式カフェを開催。ギャラリーのペランダや音楽・映像系イベントとのジョイントも多い。
commandN shop/02楠丈展「Fishboard shop」	1998/10/3〜10/18	藤浩志作品は13匹の鯉、ゴジラ、はにわ、カメ、101匹のやせ犬、2025匹のカエルを用いたインスタレーションは、環境問題や社会の制度を暗示している。会期中、会場ではチャットにより、楠丈とインターネット上でやりとりを楽しむことができる。
command N shop 03　嵯峨篤展「眺めのいい部屋は、」	1998/11/7〜11/21	コマンドNショップとは、消費者（鑑賞者）と生産者（作家）間にある何らかの共有空間・時間を実現するものである。第3弾目の嵯峨篤展では1/5スケールの家具の作品を展示、販売。
Presentation by 6 artists in　ARCUS展	1998/11/28〜12/12	ARCUSとは、茨城県が主催するアーティストインレジデンス事業。6人のアーティストが茨城県守谷町にて滞在制作していた6人の作家のプレゼンとパウワウ「アーティストインレジデンス、作家の意見」を行った。
鈴木真吾展「1/1」	1998/12/25〜1999/1/30	「最高の所得者がゲームの勝者」という高度経済成長期の一元的な価値観に警鐘を鳴らしながら、私たちの現実生活に対する新たな認識をもたらそうとする作品。
第1回国際シティービデオインスタレーション 「秋葉原TV」	1999/2/27〜3/14	秋葉原電気屋街で開催されたビデオアートの実験的現代美術展です。本展の特徴は、モニターやビデオデッキ、コンピュータなど店舗に並んでいる既存の機器をそのまま利用する点です。国内海外のアーティスト約30名が参加。
command N shop 04　ペン・ケイン展	1999/6/18〜7/7.	イギリス人ペン・ケインから送られてきた小包の中にオランダの果物市場をイメージした作品はセメントできたみかんを一つオランダのみかんーキロの値段で販売した。
「ビデオプロジェクション・ナイト」	1999/9/1	マニュエル・サイ/スペイン、カットアップ /オランダの作品を上映。
ワンデイカフェプロジェクト/「モイカフェインキューブ1999」	1998/9/4〜9/19	一日だけのオープンカフェ。移動するカフェというコンセプトで2年間東京のあちこちの場所で行ってきたモイカフェが、それぞれの場所で知り合った人々を再び同じ場所で食べ物を介して出会いをつくるイベント
ジェローム・サンルベー・ビエ展	1999/10/8〜10/24	海外の様々な都市で行われた日本の展覧会カタログの表紙を被写体に20点余りの原寸大の作品が展示。
中村政人展「美術の教育1999」	1999/11/5〜11/19	アート関係者にインタビューしたまとめたインタビュー集の制作発表インスタレーション。『美術と教育・1997』（「眠れる森の美術」展1997年上野の森美術館）に続くインタビュー集シリーズの三作目にあたる。
相沢奈美展「あなたはかたった」	1999/11/26〜12/11	展示ルームとチャットルームがあり、展示空間に入った観客が、アーティストと個人的でリアルタイムな会話をコンピューターを通じて体験する。
「コマンドN展」 −縦横の比率を変えずに拡大・縮小−	2000/1/21〜2/19	展覧会期間中、コマンドNの事務所をそっくりギャラリースペースに移動。アートプロジェクトが創造されていく過程を現在進行形でプレゼンテーションしたプロジェクト。同時にメンバーによる作品展示もあり。
第2回国際シティビデオインスタレーション 「秋葉原TV2」	2000/3/16〜 3/29	12カ国34作家が秋葉原の為に制作した新作映像作品を発表。秋葉原電気屋街でおこなわれるビデオアートの実験的現代美術展。店舗に並ぶテレビモニター等をそのまま使用し、映像をビデオアート作品にかえるだけで街の風景を変えてしまう画期的なプロジェクト。
欧州 NPO・アートスペース・リサーチ/交流	2000/6〜8	草の根交流と題し、ヨーロッパ地域で活動を行う、アーティストやアーティストが主体となり形成するアートグループのリサーチを行う。その後のヨーロッパ地域と日本とのアートネットワークの構築をねらう。
グレゴリー ・マース個展	2000/9/16〜9/30	コマンドN内にラジオ局を開設、コマンドN内のライブノイズを 発信する。新作映像作品も公開。
「スキマ　プロジェクト」（ステップ1）	2000/10/7〜10/22	都市構造を物理的、構造的「スキマ」から考えていくアートプロジェクト。ビルとビルの隙間のような物理的スキマ空間、制度と制度のような観念的スキマ空間から、そこから作品を創造、実現、展示するプロジェクト。
exonemo個展「DISCODER(Installation version)」	2000/11/23〜12/10	「ウェブページの整合性を破壊する装置 」として、プログラム的にテクノロジーの内部へと実験的に介入していくこの作品は 、アートに加えてネット・カルチャーおよびゲーム的な要素を持つユニークなネットで の試み。
地域社会におけるワークショップ・プロジェクト 「はじめての秋葉原」	2001.2.10	参加するこども1人1人が、自分にとって最もアピールしたい「秋葉原」を探し、考え、紙袋に表現してゆく。このワークショップでは、紙袋を作ることをきっかけに、改めて街を観察し、考え、表現することによって、新たな街の見え方を発見することが目的。
万城目純展 「−世界のキメ−」	2001/2/17〜3/4	三種類の異なった映像間に生まれる差異から、不可視の「世界のキメ」が踊り出し、観者の視点が「固定」と「揺らぎ」の間を彷徨う。
朝岡あかね展　"Eternity in my living room"	2001/3/10〜3/31	秋葉原という超現実的な商業・消費空間 にセンチメンタルな異空間を意図的に作りだすことで、現実と記憶を一瞬撹し、人間のアーキタイプ（原型）的共同心理を微かに揺さぶる作品。
CNT(Command N Time)	2001/3/28〜4/1	拡声器から、普段考えていること、心に思うことをメッセージとして発信します。事前に録音された19人のメッセージが、20分ごとに1作家の間隔で、日本語、韓国語、英語の3ヶ国語で発信される。
「東京ラビットパラダイス」プロジェクト (TRaP/トラップ・プロジェクト)	2001/5/1〜31・ 2001/5/1〜1年間・ 2001/6、2004/5〜7、 2004/7〜9	東京ラビットパラダイスプロジェクト(略してTRaP/トラップ・プロジェクト)は、「ウサギ小屋」といわれている東京の生活をアーティストの鋭い視線の誘導によって「ウサギの楽園」へと捉え直す計画。 東京をベースに活動する40作家のアーティストの視線で形成される新しい東京像。浮かびあがったTRaPはインターネットやインスタレーション作品を通じて発信していきます。セルフリッジ、ベニス、シドニー、ミラノ、ワイマール、釜山ビエンナーレにて発表。
スキマプロジェクト03	2001/9/29〜10/14	展覧会は作品の完成に至るプロセスを公開することにより、社会と芸術の接点を現在進行形で提示します。作品プランの参加は基本的にアンデパンダン方式。参加作品はプランだけでも可能。作品を実現したい作家のみ第二、三段階に進む。
第3回国際共同美術展 シティビデオインスタレーション/「秋葉原TV3」	2002/3/9〜3/24	秋葉原電気街を舞台に行なわれる国際ビデオアート展。電気街65店舗にならぶTVモニターやコンピューターに、10か国26作家の映像作品が流る。インターネットストリーミング配信も開始。

Powwow	1998/5/9〜2007/12	「Powwow・パウワウ」とは北米インディアンの風習で、遠くの部族がある日一つの場所に集まり、宴を囲みながら情報交換をおこなう大切な集会のこと。コマンドNでは、定期的にゲストを招き「Powwow」を開催。自由なテーマでゲストと話をする約2時間のセッション。
POWWOW/01	1998/5/9	ゲスト：小山田徹（ダムタイプ）
POWWOW/02	1998/5/22	ゲスト：前田福三郎（日本電波塔株式会社）
Powwow/03	1998/7/3	ゲスト：針生一郎（美術評論家）
POWWOW/04	1998/7/31	ゲスト：藤浩志（アーティスト）
POWWOW/05	1998/9/20	ゲスト：パトリシア・ピッチニーニ（オーストラリア、アーティスト）
POWWOW/06	1998/10/9	ゲスト：エド& エリス（イギリス+オランダ、アーティスト）
POWWOW/07	1998/10/18	ゲスト：申明銀（アーティスト）「生活・子供・美術」
POWWOW/08	1998/10/23	ゲスト：近藤竜男（アーティスト）
POWWOW/09	1998/11/13	ゲスト：嵯峨篤（アーティスト）梅壽潔（壽屋酒店主人）
POWWOW/10	1998/11/28	ゲスト：ARCUSアーティスト「アーティストインレジデンス−作家の意見」
POWWOW/11	1999/3/6	ゲスト：秋葉原TV参加アーティスト
POWWOW/12	1999/3/21	ゲスト：グリッツィア・ガーウィーウオン （ノンプロフィットアートスペースproject304/バンコク）ディレクター
POWWOW/13	1999/4/4	ゲスト：リタ・カナレッツア（サンマリノ共和国）& カリン・アリンク（オランダ）
POWWOW/14	1999/6/20	ゲスト：ジェニー・ホワイト（元ブリティシュ・カウンシル東京アーツオフィサー）
POWWOW/15	1999	ゲスト：Almut Rink,Christof Schlegel,Christian Teckert(オーストリア、 藤野アーティストインレジデンスプログラム参加アーティスト）
POWWOW/16	1999	ゲスト：アンドレアス・ブレックマン（メディア評論家、V2/Microオルガナイザー）
POWWOW/17	1999	ゲスト：ジェローム・サンルベー・ビエ（フランス、アーティスト）
POWWOW/18	1999/10/13	ゲスト：スキマ・プロジェクト公開ミーティング
POWWOW/19	1999	ゲスト：小林昭夫（Bゼミ・スクーリングシステム所長）
POWWOW/20	2000	ゲスト：A activity（建築家集団、雑誌「A」 編集」
POWWOW/21	2000	ゲスト：秋葉原TV2参加アーティスト
POWWOW/22	2000	ゲスト：Alasdair Duncan, Manuel Saiz, Josep M. Martin, Erich Weiss（秋葉原TV2来日作家）
POWWOW/23	2000/6/17	ゲスト：ナタリー・ヴィヨ（美術評論家・キュレーター）
POWWOW/24	2000/7/2	ゲスト：チョコノイ・ベルナート・アトム・タマーシュ（アーティスト）
POWWOW/25	2000/7/2	ゲスト：ニノスラフ・ジェノヴァヴィッチ （ジャーナリスト、ベオグラード大学美術史専攻/ ユーゴスラヴィア）
POWWOW/26	2000/9/22	ゲスト：グレゴリー・マース（アーティスト）
POWWOW/27	2000/9/30	ゲスト：マチュエ・トポロビッチ（アーティスト）
POWWOW/28	2000	ゲスト：スキマ・プロジェクト参加作家
POWWOW/29	2000/11/23	ゲスト：エキソニモ（アーティスト）
POWWOW/30	2000/11/27	ゲスト：ケン・ラム（アーティスト）
POWWOW/31	2001/1/27	ゲスト：芹沢高志（REALTOKYO発行人）×小崎哲哉（REALTOKYO編集長） 「メディアとツール−ウェブマガジンの新しい可能性」などについて
POWWOW/32	2001/2/17	ゲスト：万城目純（アーティスト）
POWWOW/33	2001/3/11	ゲスト：朝岡あかね（アーティスト）
POWWOW/34	2001	東京ラビットパラダイス・ロンドン編 & ヴェネチアビエンナーレ報告会
POWWOW/35	2001	ゲスト：スキマ・プロジェクト参加作家（実現編）
POWWOW/36	2001	ゲスト：秋葉原参加TV_03参加アーティスト
POWWOW/37	2007/6/15	ゲスト：ピーター・ベラーズ（イギリス/アーティスト）
POWWOW/38	2007/7/20	ゲスト：鈴木真吾（アーティスト）+スペシャルゲスト
POWWOW/39	2007/10/19	ゲスト：伊藤敦（アーティスト）＋柘植響（アートライター）
POWWOW/40	2007/11/12	ゲスト：精興社・小山成一×千葉学(建築家）
POWWOW/41	2007/12/7	ゲスト：DJ：sTILLMAn a.k.a sAk （Takeshi Records）MC：4CE FINGER （中目黒薬局） VJ：JUN FUJIWARA
氷見クリック	2004/8、2005/7、 2006/9、2007/8	企画協力。富山県氷見市におけるアートプロジェクトで、ビデオ小作品の制作を通して街のリサーチを行い、大型プロジェクションで作品を上映して市民に見てもらう。そのことによって、地域への再発見を促すプロジェクト。
KANDADA/project collective.011〜031	2005/9/26〜2008/12	本企画では、美術館やギャラリースペースでは紹介しづらい、アーティストのアクティビティにスポットを当てて展示・紹介を行う。日本全国で活動が発生しているアートプロジェクトは、多くのアーティストがライフワークのように関わるものもある。現在31のプロジェクトが参加。
ゼロダテ/大館展2007	2007/8	企画協力。秋田県大館市にて、中心商店街の空き店舗を利用しアーティストと市民が協働で作り上げる展覧会。成果として多くの市民参加があった。
ゼロダテ/大館展2008	2008/8	企画協力。大館市郊外の廃校・旧山田小学校を滞在先として利用するアーティスト・イン・レジデンスを実施。中心商店街で作品発表を行う。
Ano week in KOZA　アノコザ	2008/3	企画協力。沖縄県沖縄市にて開催された、商店街の空き店舗を中心に利用して展覧会を行う。また、大型立体パーキングの壁面をスクリーンに見立て、巨大スクリーン上映会を行う。
マダンTV	2004/9〜10	参加作家としてプロジェクト制作。千葉大の学生が中心となって活動している千葉アートネットワーク・プロジェクト実行委員会主催のアートプロジェクトへ参加。コマンドNメンバーが会場エリアとなる千葉市をビデオ取材し、短編の映像作品を町中のテレビモニタや、空き地での上映会で発表。
もみじの間	2004/11	参加作家としてプロジェクト制作。東京芸術大学主催の展覧会「言の問い」にて参加したプロジェクト。ドライバーのもみじマークにならい、シルバーと呼ばれる世代たちに戦争時の体験や、この地域での当時の暮らしを聞くプロジェクト。
ちょだ子どもワークショップ/山城知佳子	2007/3/11	沖縄出身のアーティスト山城知佳子さんと一緒に、思ったまま、感じたまま、見たまま、あるがまま、そのままの日常を沖縄の音階にのせて「つらね」を楽む。
ちょだ子どもワークショップ/フューチャーアカデミー	2007/3/25	イギリス・エディンバラから来日するアート研究機関のアーティスト4名が、英語を交えて楽しくゲームを展開。彼らの持つ独創的なアイディアと、ゲームを楽しむ楽な気持ちで、自然と英語が口をつく環境を創る。無我夢中になることで飛び越える壁は、子どもから大人までコミュニケーションの楽しさを実感する。
ちょだ子どもワークショップ/日比野克彦	2007/3/28	5人で一組のチームで戦う、ミニサッカーゲーム大会です。試合前に各チームで段ボールを用いて手作りゴールを作り、家で着なくなったTシャツを持ち出してユニフォームを作ります。誰もが身近にある素材を使って、楽しく体も頭も使ったスポーツを楽しみます。
ちょだ子どもワークショップ/藤浩志	2008/3/11	かえっこ@ちょだ〜おかねのいらない子どものあそびば〜 「かえっこ」はいらなくなったおもちゃを「かえっこ」バンクで売り、ポイントに換えて買い物を楽しんだり、働いてさらにポイントをためることもできる子どもの遊び場。
アートプレゼンイベント『ダダをこねる』	2008/3/30	本企画は目的のないプレゼンテーション合戦であり、表現するシンポジウムと言えるだろう。コンテンポラリーアート、デザイン、ファッションまで、多様なジャンルで活躍しているエッジなクリエーターをプレゼンテーターとして招き開催。
アジアリサーチプロジェクト2008	2008/5〜8	ACC（アジアン・カルチュラル・カウンシル）の助成により、タイ、インド、シンガポール、ベトナムを現地調査する。各地でオルタナティブなアート活動をしているアーティストやアートスペースと接触することを試み、インタビュー、撮影し、アーカイヴを作成し公開する。
Regional Code Asia リチャード・ストレイトマター・チャン 〜右と言えば左〜	2009/2/13/〜3/7	Project Collectiveシリーズを2008年度よりアジア地域に視点を拡げ、各国地域での活動に対するリサーチプロジェクトとして発展。本企画ではリサーチプロジェクトの対象団体の内のベトナムホーチミン市より、ゲストアーティストとしてリチャード・ストレイトマター・チャンが来日し、シンポジウムの開催と日本初となる作品発表を行う。